Engineer

WCAG 2.2

♿ このサイトが目標とするウェブアクセシビリティ標準

どのようなものか

WCAG 2.2はWeb Content Accessibility Guidelinesのバージョン2.2で、障害のある人がウェブコンテンツを利用できるようにするための要件を、検証可能な文で定めたW3Cの標準です。2023年10月にW3C勧告となり、現行版の日付は2024年12月12日です。2008年のWCAG 2.0、2018年の2.1に続く版で、会話では通常WCAGと呼びます。別の複数年にわたる取り組みとしてWCAG 3も並行して開発されていますが、現在の契約や監査で使われているのは2.2です。

文書は階層を持ちます。4つの原則は、コンテンツが知覚可能、操作可能、理解可能で、堅牢でなければならないと定めています。その下に13のガイドラインがあり、目標を述べていますが、それ自体は検証可能な項目ではありません。各ガイドラインの下に、判定の対象となる達成基準があります。各基準には1.4.3のような番号、コントラスト（最低限）のような短い名前、レベル、そしてページが満たすか満たさないかを判定できる文があります。この規範本文を補うため、W3Cは各基準の解説文書と、達成方法や文書化された失敗例の集積を公開しています。これらは参考情報です。別の方法で基準を満たしたページも、その基準を満たしています。

レベルは3つあります。Aは最低限、AAは多くの組織に求められる基準を加えたもの、AAAは最も厳しいものです。レベルは累積的で、すべて満たすか、満たさないかのいずれかです。AAについて標準は、「ウェブページがレベルAおよびレベルAAの達成基準をすべて満たすか、レベルAAに適合する代替版が提供される」と定めています。適合はページ全体に対するもので、一部分に対するものではありません。また、プロセス全体にも及びます。購入が5ページにまたがるなら、そのどのページについて適合を言うにも、5ページすべてがそのレベルに適合する必要があります。

2.2では9つの基準を追加し、1つを廃止しました。AとAAの追加項目は、2.4.11 フォーカスが隠されない（最低限）、2.5.7 ドラッグ動作、2.5.8 ターゲットのサイズ（最低限）、3.2.6 一貫したヘルプ、3.3.7 冗長な入力、3.3.8 アクセシブルな認証（最低限）です。残る3つの2.4.12、2.4.13、3.3.9はAAAに位置します。4.1.1 構文解析は、支援技術がHTMLを直接解析しなくなったため、廃止扱いで削除されました。他は2.1からほぼ変更なく引き継がれるため、2.2に適合するサイトは2.1にも適合します。

概念を判断に生かす

「WCAG 2.2とは？」を実際の判断に生かしましょう。その概念を、開発または購入するシステムに結び付けて考えるお手伝いをします。 読み込みが速く、スマートフォンでも使え、お客様がどのブラウザーを使っていても同じように動く画面を提供します。

サービスを見る お問い合わせ →

用語の背後にある前提を検証する

解説とリンク先の実績を参考に、プロジェクトについての質問を整理してください。ツールを選ぶ前に、前提を一緒に検討できます。 フルスタックのGIS地図開発を指揮 — DBからブラウザーまでのフルスタック地図開発

フルスタックのGIS地図開発を指揮 お問い合わせ →

なぜ重要なのか

WCAGは「アクセシブルにする」という要求を、誰かが確認できる一覧に変えます。標準は、検証可能な基準の用途として、設計仕様、調達、規制、契約上の合意を挙げています。購入側にとって重要なのは、契約の1文です。「アクセシブル」の意味はいつまでも議論できます。「WCAG 2.2のレベルAA、このページ群を対象とし、この方法で確認し、既知の不足を一覧にする」なら検証でき、価格を決める前に受注側へ作業範囲を伝えられます。

レベルの選択には実質的な兼ね合いがあります。公共部門の規則や調達文書が最もよく指定するのはAAで、ほぼどのようなコンテンツも到達できます。AAAは別です。標準自体が、満たせないコンテンツがあるため、サイト全体への一律のAAA要求を推奨していません。音声付きの収録済み動画すべてへの手話通訳（1.2.6）や、中学校修了を超える読解力が必要な文章への、より簡単な版の提供（3.1.5）がその例です。現実的なのは、すべてをAAにした上で、製品に合うAAAの個別基準を加える形です。例えば、長く読む文章を7:1のコントラストにしたり、キーボード操作用のツールにさらに明確なフォーカス表示を用意したりします。

バージョンの選択には明確な答えがあります。作業部会は、義務上は以前の版が指定されている場合でも、2.2を目標にするよう推奨しています。2.2は2.1を含むため、2.2に合わせても互換性の負担は増えません。例外的に注意が必要なのは

4.1.1です。方針によって2.0や2.1を求められる組織では、構文解析の検証と報告がなお必要な場合があります。

費用は着手の時期に左右されます。AAの多くは初期の選択で決まります。独自部品ではなくHTML標準のコントロールを使うこと、コントラストを測った配色、見えるフォーカス表示、320 CSSピクセルで折り返すレイアウトなどです。最初に決めれば、費用はほとんどかかりません。公開後の監査で見つかると、その部品を再利用したすべてのページに繰り返される不具合になります。

実際の活用例

このサイトはWCAG 2.2のレベルAAを目標にしており、2つのページで作業と限界を説明しています。サイト全体へWCAG 2.2のレベルAAを適用する作業の記録は、全ページ、全言語、両方の配色を対象とする目標を定めています。文書で宣言するだけでなく、検査で適合の根拠を示す方針です。

中心となる道具は、基準ごとに1行を設け、裏付けとなる実装と検査を記した適合記録です。視覚的提示というAAA基準1つについて全項目を取り入れ、目標より広く対応しています。フォーカスの外観は写真上のコントラストを証明できないため、機能として提供していても適合を主張していません。ルールエンジンではベストプラクティスの規則も実行し、30規則が増えました。有効にした直後、そのうち1つが失敗しました。すべての内部ページで、ブランドマークがどのランドマーク領域にも属していなかったためです。時間のかかる別の検査では、32の代表ページを2配色、2種類の幅で調べます。Tabキーを押してスクリーンショットを比較し、フォーカスをピクセル単位で検証します。各ページを巡ってキーボードトラップを探し、テキストの間隔設定を上書きし、ルートの文字サイズを2倍にします。記録されている2026年8月の3言語段階では、2テーマと明示されたビューポートのサンプルについてこれらの検査を行い、目標を超えるAAA基準が1つある一方、1.4.13は一部のみ達成と記録されていました。実際の支援技術によるテストを実施したことは、確認されていませんでした。これは実装した検査と既知の限界の証拠であり、あらゆる構成にわたる完全なレベルAA適合の証拠ではありません。

クレジットページは目標と既知の制約を読者へ示しています。そこでは1.4.13 ホバー又はフォーカスで表示されるコンテンツを挙げています。マークにポインターを重ねたりフォーカスしたりした際に現れる現在のCSSラベルには、キーボードで閉じる操作がなく、この基準は一部しか満たしていません。同じページは、品質ゲート内で、複数のテンプレートにまたがり、設定済みの全言語を含む代表ページに対し、両配色でWCAG 2.2のAとAAを対象にaxe-core監査を行うことも

記しています。こうした自動規則だけで完全な適合は確立できません。W3Cの評価ツールに関する指針は人の判断が必要だと説明しています。そのため記録を単なる合格印ではなく、基準ごとに残しています。

問題が起きるところ

自動監査は合格しているのに、キーボード利用者が日付選択から出られない。 ルールエンジンが読むのはマークアップの宣言です。しかしWCAGの多くは、代替テキストが要点を伝えるか、フォーカス順が読む順に沿うか、キーボードで部品から抜けられるかなど、ページの動作に対する判断を求めます。エンジンは最低限の検査と考えます。文字を200%にし、幅を320 CSSピクセルにして、キーボードだけですべてのテンプレートをたどり、基準ごとに誰がどう確認したかを記録します。

追従ヘッダーがフォーカス中のリンクを隠す。 2.4.11は、フォーカスした部品が制作者の作ったコンテンツに完全には隠されないことを求めます。よくある原因は固定ヘッダー、Cookieバナー、チャットボタンです。`scroll-padding-top` をヘッダーの高さに設定して場所を確保し、ブラウザーがフォーカス要素をその外へスクロールできるようにします。また、浮動パネルをフォーカス可能なコンテンツから離します。

サインインで何かを記憶したり入力し直したりするよう求める。 3.3.8は、代替手段、補助機能、2つの限定的な例外のいずれかがない限り、認証のどの段階でも、パスワードを思い出す、パズルを解くといった認知機能テストを認めません。貼り付けを禁止するパスワード欄や、文字の転記を求めるCAPTCHAで違反しがちです。貼り付けとパスワードマネージャーを認め、パスキーやメールのリンクを提供し、テストが不可避なら転記より物体の認識を選びます。

「完全適合」と宣言したのに、最初の監査で不適合が見つかる。 レベルは全部を満たすか否かなので、AA基準を1つ満たさないだけで全体の主張が誤りになります。代わりに標準が定める形で適合を表明します。日付、ガイドラインの題名、版とURI、レベル、対象ページ、依存する技術を記します。対象のすべてのページが満たすことだけを主張し、不足する基準は番号、理由、対応計画を明示します。不足があるのに上のレベルを名乗るべきではありません。

参考資料

- Web Content Accessibility Guidelines（WCAG）2.2 — 原則、ガイドライン、達成基準、適合要件を定める規範本文。

- WCAG 2.2の新しい内容 — 9つの新基準を人物例と共に個別に説明し、4.1.1 構文解析の削除も扱います。
- WCAGの達成方法（クイックリファレンス） — 各基準と達成方法、文書化された失敗例をまとめた、絞り込み可能な一覧。
- 適合を理解する — レベル、ページ全体、完全なプロセス、アクセシビリティサポーテッドの意味。
- WCAG 2の概要 — 各版の関係と、標準を補う文書の構成。

用語集

実際の制約に合わせて選ぶ

業務の流れ、既存のインターフェース、変更を必要とする利用者をお知らせください。検証可能な納品内容と、お客様のチームが保守を続けられる引き継ぎ内容を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

用語を実務に結び付ける

「WCAG 2.2とは？」がお客様の組織にどう当てはまるかをご相談ください。現在のシステムの具体例が一つあれば、話を始められます。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/glossary/wcag/